

篠路のねきし

しのろむら さっぽろ
篠路村は、札幌のまわりの村で一番早く開拓された土地の一つです。

人口をふやして町をつくり、外国から国を守るために※江戸幕府の

あらいきんすけ のうみん そうやませいたろう
荒井金助が、土地にくわしい農民の早山清太郎に、『農業がしやすく
交通にべんりな土地』をさがしてもらい、その土地を開拓して、江戸時代
に『荒井村』がうまれました。

めいじ なかじまむら
明治4年(1871年)には、荒井村と中嶋村が『篠路村』となりました。

そのころの人口は160人ほどでした。

しょうわ
昭和30年(1955年)に札幌市篠路町となった当時は、田んぼや畑ばかり
でした。しかし、土地がたいらで札幌市の中心まで近かったことから、
家が次々にたっていきました。



平成28年
札幌市撮影

えどじだい
江戸時代かられきしがある
なんてスゴイ！！
それに、すごく住みやす
そうなまちだな！



今、札幌市は、地いきの中心としてふさわ
しい場所となるよう、JR篠路駅のまわりで
新しいまちづくりを進めています。

※江戸幕府とは？

とくがわしょうぐん せいじ
徳川将軍が政治を行っていた
ところ。



▲篠路駅周辺